福島県耶麻郡西会津町
奥川地区中町集落活動報告書

令和４年度　関係人口づくり強化事業

〈参加メンバー〉
A　（２０１８年度卒）
B　（２０１９年度卒）
C　（２０１９年度卒）
D　（２０２１年度卒）
E　（現役４学年）

２０２３年２月２８日
福大岩崎ゼミ中町会

１．活動の目的

福島大学岩崎ゼミでは、過疎・中山間地域の活性化をテーマとし、域学連携による地域活動を実施している。人口減少や高齢化に伴う地域課題に対して、集落と学生との協働による地域調査や調査を基にした実証活動を実施している。

平成３０（２０１８）年度より２年間にわたり「大学生の力を活用した集落復興支援事業」を活用し、西会津奥川地区中町集落において、フィールドワーク調査や人足と呼ばれる集落の共同作業や祭礼行事等のボランティアに参加し住民との交流を図ってきた。

しかし、大学卒業後は、就職等を理由に集落に足を運ぶ機会が減り、継続的な交流が困難であった。本事業を活用することで、かつて交流が生まれた学生と地域住民との関係性を再度築いていき、若者ならではのアイデアや知見を集落の元気づくりに繋ぐとともに、交流人口や関係人口の拡大を図ることを目的とする。

２．活動スケジュール

（1）令和４年１２月７日（水）

参加者との顔合わせ・活動打合せ(zoom)

（2）令和５年1月２１日（土）２２日（日）

現地活動

＜現地活動スケジュール＞

１日目

１２：１５	福島駅西口から借上げジャンボタクシーで現地へ出発
１４：３０	西会津町奥川みらい交流館　到着 （自家用車使用の参加者と合流）
１５：００	雪灯篭づくり
１８：００	点灯式
１９：００	夕食

２日目

９：００	除雪体験
１０：００	借り上げジャンボタクシー/自家用車で奥川みらい交流館出発
１２：３０	福島駅到着・解散

３．活動内容

（１）１２月７日（水）参加者との顔合わせ・活動内容の打合せ

西会津町の集落支援員の岩橋さん、地域おこし協力隊の渡辺さん、星野さんと今後の活動についてオンラインで打合せを実施した。岩崎ゼミからはＯＢＯＧ計４名が参加し、現地までの移動手段や活動内容について意見交換を行った。参加したＯＢＯＧは、ゼミ活動のほかに昨年度の「ＯＢＯＧ参加による関係人口強化事業」でも中町集落で歳の神を体験したこともあり互いに面識があった。

まず、渡辺さんより参加者へ中町集落の現状の共有がされた。集落では、４０人弱の人が生活しているが、高齢化率は５０％を超えており、集落の人だけでは集落活動の維持ができなくなりつつあるとのことであった。また、冬の時期は積雪が例年１メートルを超えるため、独居高齢者や高齢者のみの世帯が多い中町集落では冬期間の除雪も大変になっている。

このような過疎高齢化による地域課題は多いが、学生をはじめとした外部とのつながりができたことで、集落の雰囲気も徐々に変わりつつあるようだ。私たちが集落調査に入り提案したアイデアが集落で実現されるなど、中町集落の活動が町内各地で認知されているとのことであった。今回の事業の中でも提案を形にして集落の活力を生み出したいとのことであった。

今回私たちは「大学生の力を活用した集落復興支援事業」で岩崎ゼミの学生が集落内で実施した一日孫体験を冬の時期に実施したいと考えている。西会津町は、県内でも有数の豪雪地帯であり冬季間の生活に除雪は欠かせない作業である。そのような中、独居高齢者や高齢者のみの世帯が多い集落を中心に、雪処理は課題となっている。

課題を解決するべく、「大学生の力を活用した集落復興支援事業」で実施した一日孫体験を発展させ、冬の暮らしや知恵を学びながら作業支援を通して住民と交流をし、「除雪」を資源として活用し、冬期間における大学生やＯＢＯＧと集落がかかわるきっかけを模索することをベースに話をした。

＜参加者からの活動内容の提案＞

案①　除雪だけではない冬のアクティビティを体験したい

　除雪体験は雪国ならではのコンテンツであり、参加する私たちにとっては普段体験できないことである。しかし、集落の人にとっては、大変なことでありマイナスなイメージがある。そこで、単なるお手伝いや作業としてではなく除雪を生かして住民の皆さんも私たちも楽しめる活動がしたいとのことであった。
　かまくらや雪合戦は集落の人を巻き込んで行うことが難しく遊びになってしまうため、除雪に加えて雪灯籠をつくり、集落に明かりを灯す提案がされた。
　夜に外を歩く習慣もなければ灯りもなく暗い状況であるため、集落の人との新しい試みができればうれしいと思っている。

案②　昨年の参加メンバーや県職員のほかにもゼミのＯＢＯＧが参加できるようにしたい

　今回の参加希望者は昨年実施した歳の神に参加したメンバーであり、同じメンバーが参加するより、前回来ていないゼミ生も一緒に参加できればさらに集落とのつながりができる。各年代で呼びかけをして少しでも多くの人が参加できればうれしい。
　昨年もオンラインでも配信を行ったということもあり、現地とオンラインのハイブリッドでの開催の提案がされた。
　また、参加者４名のうち３名が県職員ということもあり、違う職種で仕事しているＯＢＯＧにも声をかけて現地で活動したいとのことであった。
→後に参加者が２名加わり計６名での実施となった。

（２）１月２１日（土）・２２日（日）　現地活動

＜１日目＞

１名が急遽欠席となったが、ゼミのＯＢＯＧと現役生合わせて５名で西会津町中町集落を訪問した。

参加メンバーの中には大学卒業後に初めて集落を訪れる人もいた。同じ岩崎ゼミでも異なる年代の人が集まる機会がないためとても新鮮に感じるとともに岩崎ゼミと中町集落との関わりが強い印象を感じた。

今年は例年に比べると雪は少ないとのことだったが、普段雪のある生活に慣れていない私たちにとってはとても雪が多いと感じた。

オリエンテーション後、早速、集落の７か所で雪灯籠づくりを体験した。雪灯籠をどのようにして作るのか知らなかったが、集落支援員の岩橋さんに作り方を教わりながら家の玄関先に作った。バケツで雪を押し固めるときれいな円柱ができ、ろうそくを置く場所を掘るだけでとても簡単に作ることができた。

岩橋さんに教えていただきながら楽しく行った

各家にアレンジを加えながら雪灯籠を作成した

作業をしていると、住民の方たちや通りすがりの人が声をかけてくださり人の温かさを感じた。久しぶりに顔を合わせたのだが、名前を覚えてくださっていたり近況を和気あいあいと話したり、久しぶりとは思えない空気感があった。

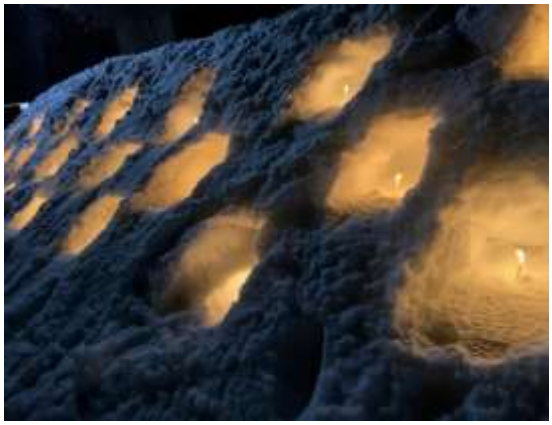
昨年も集落を歩きながら屋号看板を見学させていただいたが、今年度はサポート事業で屋号マップを作成しているところで完成間近とのことだった。そのように集落での活動を話されている様子を見て、集落のバイタリティがとても感じられた。

１８時からは、点灯式ということで１か所ずつ灯籠に火を灯した。オンラインでも配信をしたが、他のゼミ生の参加はなかった。それでも、現地で集落の

人たちと交流をしながら集落内を回り歩いた。冬の屋外は思いのほか暗く、厳しい冷え込みだったが、玄関先を暖かな光で彩ったことで住民の皆さんが喜んでいたのが印象的であった。一緒に集落を歩いた住民の方は、何十年も集落に住んでいるが、冬の夜にこうして出歩くことはなかったし、雪灯篭を作る発想がなかった。炎の揺らぎがとてもきれいだ」という声があった。

集落の皆さんに協力いただいたことでまた一つアイデアが集落内での活動に結び付くことができたように思う。

住民の皆さんと一緒に集落を歩きながら火を灯した



奥川みらい交流館にもたくさん灯りをつけた

集落の皆さんとの交流もできた

集落支援員の岩橋さんからたくさんお話を聞くことができた

＜２日目＞
　朝の１時間ほどであったが中町集落内の除雪体験を実施した。
　西会津の雪はずっしりと重く、少しの体験であったが手や腰に負担がかかる作業だと体感した。豪雪地帯の冬の暮らしでは、この作業が日常であり、同じ福島でも全く違う暮らしを感じられた。中町集落からさらに奥にある弥平四郎という集落は、ほとんど高齢者だけであるが、各家の冬の除雪はどこの集落よりもきれいだという。町の中心地から離れているからこそ、自助や共助を中心とした意識があるようだ。
　ゼミ活動の中では、冬に西会津で活動したことがなかったが、学生ボランティアで入る余白があると感じた。
　今回の集落での活動の様子は、福島民報新聞社、町ケーブルテレビ、町広報紙で発信された。

４．参加者からの感想

　今回ＯＢＯＧ事業に参加するにあたり受入れしてくださった集落の方々、地域おこし協力隊の皆様に感謝申し上げます。
　今回参加した理由は、一番に昨年度参加して非常に楽しかったということと、大学時代にお世話になった集落がどのように変わってきているのかを見たいという思いがあったからです。
　昨年度は、歳の神という集落の伝統行事に参加させていただきましたが、今回は新たな取り組みとして雪灯籠づくりを行いました。複数のお宅を訪問して雪灯籠を作り、点灯して集落の方々と一緒に灯籠を見て交流を図れたため、楽しい時間を過ごすことができました。
　岩橋さんとお話しして、企業や大学生が集落にたくさん来ているという話を聞いてうれしく思った部分もありましたが、地区のマラソン大会が終わってしまうなど寂しく感じるニュースもありました。

社会人になった今、どのような形で集落と関わることができるか、貢献できるかということを今後集落の方々や協力隊の方たちと考え、何かいい提案ができるようになりたいと思いました。

参加者Ｂ

大学を卒業して以来の西会津でしたが、学生の時と変わらず住民の方が温かい雰囲気で迎えてくださり、雪灯籠も喜んでいただけたのが嬉しかったです。雪の中で光る雪灯籠はとてもきれいで、心温まる景色でした。

住民の方が私たちのような地元以外の外部の人を積極的に迎え入れてくださる雰囲気があることでいつでも戻ってきていいんだなという安心感につながり、関係人口の増加につながっていくのではないかと感じました。

ＯＢＯＧの交流を通して、学生の頃を思い出すことができ、楽しい時間を過ごすことができました。また機会があれば西会津に行きたいと思います。ありがとうございました。

参加者Ｃ

今回の交流会は、私にとってとても貴重な経験で、有意義な時間となったものでした。特に良い経験になったと思った点が２点あります。

１点目が、雪灯籠をつくるという普段出来ない経験をすることができたことです。年を重ねるごとに雪遊んだりすることが少なくなっていく中で、雪灯籠をつくるということは初めての経験でした。つくる過程でも先輩や住民の方と交流することができ、夜に火を灯した時はその綺麗さに感動しました。夜に誰かと話しながら外を歩くという経験は普段出来ない、非日常としての特別な経験でした。

２点目が交流会を通して、普段出来ない交流ができたことです。自分よりも３～４歳上の先輩と関わることは普段ないため、社会人経験や先輩たちが行なってきたゼミでの活動などを聞くことができ、とても参考になることがありました。

また夕食づくりなども含めて、地域おこし協力隊の方々や住民の方など、様々な立場の方とお話をすることが出来、それがとても楽しくかつ有意義な時間だと感じました。自分にはない視点や経験を踏まえたお話しをすることが出来たことが、これから社会に出る上でも参考になるお話しとなりました。

交流会自体は、普段出来ない経験と繋がりが得られた、とても楽しく貴重な経験になるものでした。

参加者Ｅ

５．集落からの感想

昨年に続き、岩崎ゼミの卒業生が集落にまた来ていただけてとても嬉しいです。就職するとどうしても集落との関わりは薄くなってしまうと思います。そのような中で、今回のように自ら行きたいという気持ちを持って参加してくれた皆さんに感謝しています。

皆さんがこれまで地域に入って見てきたように集落の高齢化は進んでいます。７０代８０代の人が多く、５０代６０代が若い年代として数えられています。人口も少なくなってきている中で、皆さんのような若い人が集落に入ってくれることは大きな意味があります。集落の活動に協力して交流したり、たくさんのアイデアを出してくれたりすることで集落の人たちは元気をもらえます。集落の人だけではできないことでも皆さんの協力で活動の継続や、新しいことへチャレンジする気持ちを芽生えさせてくれます。

年齢も職業も住んでいるところも違う人達が、以前関わりのあった場所に集まり活動することは一昨年までありませんでした。大学生事業をはじめ、県の事業があったからこそつながれた縁だと感じています。

このような集落の人と集落外の人とのつながりを今後も大切にできればと思います。また集落に来ていただけるのを楽しみに待っています。ありがとうございました。